

ネパール研修報告(第二報)

同窓会 会長 佐々木千佳子

事前準備としては「在ネパール日本国大使館」と「外務省:わかる！国際情勢ネパールの民主化・平和構築プロセス」、「地球の歩き方」をさっと見た程度で、あとはオリエンテーションで戴いた資料である。

私としては、ネパールのライフラインつまり環境に注目して研修に望みましたので、ネパール日本国大使館ホームページの情報を引用しつつ現状との比較表を作成してみた。

	日本国大使館ホームページの注意事項	カトマンズ市の1週間
① 停電	<p>10月より1週間に29時間の停電 「Power Cut Schedule」 ネパールを7グループに分けて曜日毎に停電の時間帯が示されていたが、自分たちが滞在する地区がどのグループになるのかはわからなかった。</p> 	<p>◇Radisson Hotelでは最初の停電では一瞬アツと思ったものの、すぐに自家発電に切り替わったため3日目になると「またか！」というくらいで慣れてきた。しかしシバクチの研修センターでの停電やパシミナのお店での停電は結構長時間であった。</p> <p>停電ではないが、小学校の教室には蛍光灯はあっても点灯はされていない状況には考えさせられた。</p>
② 水 (上下水道)	<p>当地は衛生状態が非常に悪いため、外食される際は、生野菜等の生ものはなるべく避け、熱の十分通っているものを選んでください。また、水質も非常に悪いので、水は絶対にお飲みにならないでください。氷も控えた方が良いでしょう。</p>	<p>◇Radisson Hotelのサービスとして用意される1日2本のミネラルウォーターで、飲料水やうがい等に供し、充分量であったため短期の滞在ではとくに問題は感じなかったものの、生活することを思うと大変である。</p>
③ 大気汚染	<p>カトマンズの大気汚染は悪化する一方です。喉を傷める方が増えていますので、外からお帰りになりましたら、よくうがいをしてください。できれば外出中はマスクをすると良いでしょう。</p>  	<p>◇乾季であったためある程度覚悟して参加したが、想定以上の汚染状態であった。</p> <p>最初、トリブバン空港からの眺めた市街の街路樹が埃で真っ白、そのため町並みまでも荒んで見えた。市内を走った時に車から見えた街は排ガス・乾いた道路は土埃・空は黄砂のような埃っぽさで、目がかゆい、目薬の携帯は必須である。喉はマスクのお陰でうがいのみで対処できた。</p> <p>カカニ山(1700m)に登頂したときも、道路が埃っぽいのは仕方ないと思うものの、晴天にもかかわらず、青空は見えず一瞬スモッグ？と思ったがよく考えてみると地理的にも黄砂？であろうと思われた。</p>
④ 野犬	<p>ネパールの野犬は狂犬病の危険があります。昼間はおとなしいのですが、夜になると活発になりますので、夜間の徒歩による外出は危険ですので、なるべく車輛で移動するようにしてください。</p>	<p>◇ホテルの周辺や市内観光で異様に感じたのは犬の態度である。昼間のしかも人通りの多い街中で、日本ではほとんど見たことがないような態勢(一瞬、死骸?)であちこちに寝そべっている。その大きさは中型であり痩せていない。カトマンズの町並みからして、もう少し痩せている犬がいてもよさそうに思われた。</p>

⑤ その他 (社会環境)	図説 ネパール経済2010より ・労働人口の65.7%が農業に、9%が製造業に、8.7%が商業 ・貧困割合 30.9% 1日1.25ドル以下 55.1% 1日2ドル以下 77.6% ・識字率 56.5% ・就学率 60.8%	◇陽の当たる場所は観光地でさえ、非就労者の居場所である。(膝を抱えている人達) 自宅の前を掃き掃除する人もわずかにみられたが、道路・空き地等に捨てられたごみの散乱が気になった。 溝を含む道路脇へ溢れた水とゴミが混ざり悪臭がしている。雨季はどんなであろうか想像できる。
--------------------	--	---



<課題と今後の検討>

1. 今回我々同窓会からの手土産は「ソーラーランタン」で耐久性は10年、1Wの高輝度LEDライトで、2段階の照明モードを搭載し、弱に設定した場合20時間の連続使用が可能なのです。

- ◇ 仕様 海外仕様
- ◇ 充電時間 天候によりますが、約6時間(DC12V/300mA)で満充電が可能
- ◇ 電池 Ni-MH/2.4V 3200mAh
- ◇ サイズ 120:(D)×144(W)×153(H) 重さ:590g

※ 問題は設置条件で、日照の状態・日照時間等に左右される



- 滞在してわかった大気汚染！ 性能への影響はどうであろうか？ 1年後にでも是非、効果をお伺いしたいと考えています。

2. 水(上下水道)などの環境については、政府が行う公共事業以外で個人的に可能なことはないか？ 雨季の貯水については1000Lタンクの設置などもみられたが、普及率の向上を期待するのみである。しかし、この水は大腸菌などに汚染されていることが多く安全とは言えない。また、市販のミネラルウォーターの中にも細菌に汚染されたものもあるようだ。

※ 国連開発計画ではネパールの全人口の約30%は「安全な飲み水にアクセスできない」という生活環境である。予想以上に良い数字であるにも関わらず安全な飲料水の環境整備ができない原因について調べてみたい。(飲料水の水源、水質、飲料水確保の手段など公衆衛生学的見地を含めて)

3. その他の環境

ゴミ処理システムはどのようになっているのであろうか。各家庭できることから始めることはできないのであろうか。少しでも悪の連鎖を断ち切ることができれば、衛生思想の普及にもつながらないかと期待するのは無理なのか。

国連開発計画ではネパールの全人口の約80%は自宅にトイレがないとある。

研修地であるカトマンズ市はネパールの首都であり、最も発展しているところである。そのカトマンズでさえ上記の現状をみる事ができた。すべて医療・衛生環境に通じるものであり、PDCAサイクルを検討し効果的な支援の在り方について考えてみたいと思いました。